

平成30年生駒市教育委員会第4回臨時会会議録

1 日 時 平成30年8月6日(月) 午前9時35分～午前11時8分

2 場 所 生駒市役所 401・402 会議室

3 審査事項

- (1) 議案第18号 平成31年度使用小学校教科用図書（特別の教科 道徳を除く。）採択について
- (2) 議案第19号 平成31年度使用中学校教科用図書（特別の教科 道徳）採択について

4 出席委員

教育長	中 田 好 昭		
委員（教育長職務代理者）	飯 島 敏 文	委 員	寺 田 詩 子
委員	神 澤 創	委 員	浦 林 直 子
委員	坪 井 美 佐	委 員	レイノルズあい
委員	西 井 久 之		

5 事務局職員出席者

教育振興部長	真 銅 宏	教育指導課長	城 野 聖 一
教育総務課課長補佐	山 本 英 樹	教育指導課課長補佐	滝 澤 治 生
教育指導課指導主事	前 田 伸 行	教育総務課（書記）	牧 井 望
教育総務課（書記）	鬼 頭 永 実		

6 傍聴者 22名

午前9時35分 開会

○開会宣告

○日程第1 会期・会議時間の決定

○日程第2 議案第18号 平成31年度使用小学校教科用図書（特別の教科 道徳を除く。）採択について

・平成31年度使用小学校教科用図書（特別の教科 道徳を除く。）採択について、城野教育指導課長から説明

<参照：議案書p1、資料1>

（質疑）

【 理科 】

中田教育長：理科についてご意見を伺いたい。現行のものを引き続き使用してよいか。

（異議なし）

審議結果【新興出版社啓林館を採択】

【 音楽 】

中田教育長：続いて音楽についてご意見を伺いたい。現行のものを引き続き使用してよいか。

（異議なし）

審議結果【教育出版を採択】

【 その他 】

中田教育長：続いて、理科及び音楽を除く教科については、現行の使用本からの変更を希望する意見がなかったので、一括して審議をする。ご意見を賜りたい。

西井委員：算数について、学力状況から考えると、今使っている日本文教出版より啓林館、東京書籍の方が難易度の高い問題がある。様々な学力の子がいる生駒市にとっては、啓林館や東京書籍がいいのではないかと思う。

飯島委員：算数の教科書については、難解ではないものの正答率が低い、場合の数の単元において、日本文教出版は丁寧で誤解なく伝わるものだと感じた。このような点が前回採択された理由だと思う。先生方がご自分の言葉で表現しづらいものを図示している点など、現行の教科書が適切であると感じた。

西井委員：私自身は新興出版啓林館、東京書籍がいいと思うが、現場の要望もあるので、現行の日本文教出版でもいいと思う。

飯島委員：今年度の採択は、現在使っているものを、あと一年使うかどうかという部分が焦点となる。現状として、一年分を変える大きな理由がない。次

年度採択の際には、慎重に審議していきたい。音楽と理科についても大きな変更はないため、このような結論に至っているのもあって、安易な結論に至ったのではない。教科書はあくまで学習者である児童らにとって、分かりやすく、使いやすいものであるのがいいと思う。

中田教育長：皆様のご意見をまとめると、先ほど審議いたしました理科と音楽を除くすべての教科について、現行の使用本を生駒市の平成31年度使用小学校教科用図書として採択することにご異議ないか。

審議結果 【現行の使用本を採択】

【 特別支援学級使用教科書 】

・特別支援学級使用教科書の採択について城野教育指導課長から説明

中田教育長：特別支援についても普通学級にて使用する教科書を使用するのが望ましいという説明であったが、いかがか。

(異議なし)

審議結果 【現行の使用本を採択】

○日程第10 議案第19号 平成31年度使用中学校教科用図書（特別の教科 道徳）採択について

・平成31年度使用中学校教科用図書（特別の教科 道徳）採択について、城野教育指導課長から説明

<参照：議案書 p 3、資料2 >

(質疑)

中田教育長：ただ今事務局の説明にあった、①教材・資料等の分量、使用上の便宜・編集上の工夫等、②表記や表現、印刷等、③内容の程度や取り扱い等の特徴、④学習の指導上の工夫、⑤その他の5つの視点から順次審議を進める。まず、①教材・資料等の分量、使用上の便宜・編集上の工夫等について、皆様からご意見を賜りたい。

飯島委員：昨年度小学校採択した際も感じたが、各社とも30～40の単元があり、教材量が多い。国語の教科書として読解するだけでも時間がかかり、全ての単元を授業中に網羅することはできない。そのため、生徒らが課外でも読みたいと思えるものがあるだろう。各社、いじめ、命について丁寧に書かれているが、日本出版は台湾に関するものが、1・2年生用で扱われ、内容も似通っている。内容を重複させるより、多様なものを題材とすべきではないか。また、「最も無礼な振る舞い、最も礼儀ある振る舞い」という単元があり、価値観の押しつけともとれる内容がある一方で、多様性を重視する記述もあり、一貫性を欠いているようにも感じられた。

- 西井委員：東京書籍について、内容を少なくコンパクトにしている。補助教材については、現場からの意見では切り取って使うのは取り扱いにくいと言われているが、評価に用いるには適している。
- イノズ委員：重さ、大きさが気になった。ただ、最近の使用頻度によっては教材を学校に置いておくことができるかと伺っているが、道徳については置いて帰ってもいいのか。
- 城野課長：資料集や、週に1回のみ授業となる教科書については、置いておくことも許容されているので、道徳についても置いておくことが考えられる。ただ、その点については、各校の判断に任せている。
- 飯島委員：重さについては教科書が出来上がってから始まった論争なので、今は議論しようがないと感じる。ただし、内容的に同質のもの認められるならば、もちろん軽く小さいものを採択すべきだと思う。試に量ってみたところ、あかつきは500g台、教育出版、東京書籍等は300g台であり、ほかの教科書は400g台であった。
- 浦林委員：光村図書出版は1学期からシーズン1～4と順番が決まっており、時期も指定されていた。道徳については、他教科のように順番を守って学習するより、クラスの実態や学校での取組にあわせて先生が教材を選択していけるのがいいと思うので、時期まで指定されているのは違和感がある。
- 西井委員：私も同感である。何月に授業するということまで記載されると現場としては使いづらい。
- 坪井委員：東京書籍では心情円が記載されているが、生徒らに馴染みがあるのか。
- 城野課長：教科書会社としての特徴であるので、必ずしも馴染みがあるものではない。
- 飯島委員：あくまで教科書会社での提案であって、必ずしも使用しなくてはならないのではないと思う。
- 中田教育長：続いて、②表記や表現、印刷等について、皆様からご意見を賜りたい。
- 坪井委員：あかつきのみ、表題に「自分を見つめる」という記述が多く、自分を中心に道徳を考えていると思った。
- 飯島委員：日本教科書とあかつきの2社で、表紙に人物が描かれていない。表紙に伴うものとも限らないが、2社の教科書については、内容が概念的であり、生徒らにとって自分事としてリアリティを感じにくいと感じた。また、固有名詞をアルファベットで表記している部分もあり、心情移入しにくいのではないかと。
- 中田教育長：次に、③内容の程度や取り扱い等の特徴について、皆様からご意見を賜りたい。
- 西井委員：内容については、いずれの出版社も指導要領を網羅しているが、いじめについての単元と命の大切さについての単元を、特に重要に取り扱って

いく必要があると思う。日本文教出版は、命の大切さについての単元が散らばっている。東京書籍は、いじめについて漫画を使っており、生徒らにも分かりやすくなっている。

寺田委員：私もいじめについての単元と命の大切さについての単元が重要であると考えており、特に命については、自分、他人の命を大切にすることというのを伝えていただきたいと思っている。また、遠慮して自分のことが言えない子が増えているが、東京書籍の教科書では、話し合いの手引きを提示しており、活用しやすい。話し合うスキルは社会に出てからも役立つ部分であると思う。

浦林委員：多岐にわたる単元があり、生徒らが知らねばならないものが増えている。日本文教出版は、奈良筆や新薬師寺の仏像について、記載があった。奈良に住む生徒たちが意外と知らない伝統文化について、関心を持ちやすいのではないかと思う。

飯島委員：中学生という時期を考えると、社会に出ることや働くことの意義を伝えるべきではないかと思う。このことについては、日本文教出版が大きく取り扱っていた。日本文教出版は、命の大切さについては3年生でしか取り扱っていないが、様々な単元に関連して取り扱われており、命の大切さについては、どう扱うかが重要であると感じた。臓器移植が取り上げられていたが、本人の意思決定について学ぶと同時に、遺族にとっては、美しい状態で遺体を扱いたいという考えもあることを記載している。道徳という教科書については、様々な答え、考え方があっていいのであり、考える題材を与える教科書であってほしい。

レノルズ委員：②の表現の仕方に関連するが、男女の性的役割に偏りがなかに注目した。偏りは少なかったが、日本教科書の3年生用に、働く母親が家族の介護のために、今は働く時期ではないと仕事を辞める部分がある。家族の世話をするのは母親だという観念を植え付けてしまうのではないか。2年生用では路線バスの運転手をしている母親が描かれているので、全体的に母親の社会進出を否定している訳ではないが、少し残念に感じた。逆に、光村出版では、男女参画にも関係ない単元で、父親がご飯の用意をしている。男女平等に配慮があると感じた。性については、積極的に記載している教科書が少なかった。

飯島委員：性別の役割について、日本教科書の内容が非常に気になった。母の自己実現を家族のために犠牲にしてしまう。古い家族観を生徒らに押し付けてしまうと感じた。

浦林委員：光村図書出版では、ゆずやアンジェラ・アキなどの歌詞、日本文教出版等では、さだまさしの歌詞が扱われており、生徒らにも印象付けやすいと感じた。また、教科書に記載される文章は、古典的な物語から、出版社の意図のもと編集委員会が書いた文章まである。しかし、教育出版、

あかつき、日本教科書では、出典が表記されていないものが多く編集委員会作という表記もなく、やはり出典は明示するのがいいと思う。

中田教育長：続いて、④学習の指導上の工夫について、皆様からご意見を賜りたい。

浦林委員：単元の振り返りについては、教科書内に書き込めるものと別冊になっているものがある。あかつきと日本文教出版は別冊があり、先生が評価する際に便利でだと感じた。

西井委員：道徳は評価が難しく、時間がかかる。毎時間、クラス全員分の別冊を評価していくのは、先生の負担が大きい。東京書籍は書き込み欄があるほか、学期ごとに振り返りシートがあると、先生も評価しやすいと感じた。また、別冊が埋まらないと先生方が罪悪感を抱いてしまう。現場は日本文教出版を推薦しているようだが、別冊を使いこなせるのか心配だ。私は東京書籍のものがいいと思う。

飯島委員：分量としては、東京書籍がいいと思う。あかつきは量が多すぎて扱いきれない。ただ、日本文教出版の別冊は薄いので、先生が評価する際や、生徒らの持ち帰り学習の際、使い勝手が良く、用途が豊富であると感じた。

レイルス委員：道徳の授業の進め方を重視して決定するべきだ。多くの価値観に触れることが大切なので、書く時間が多いより、ディスカッションする時間を確保できる教科書が良い。別冊を活用すると書くことが中心になってしまうのではないか。また、道徳の評価方法を伺いたい。

城野課長：記述によって評価し、他科目のような段階による評価はしない。

飯島委員：ワークシートのような書く教材はディスカッションを妨げるかもしれないが、ワークシートがあることで、生徒らも何について話し合えばいいか分かりやすくなるし、話し合ったことをまとめやすい。指導については、先生に委ねたい。

中田教育長：最後に、⑤その他について、皆様からご意見を賜りたい。

飯島委員：すべての出版社で扱う教材が多く、網羅できないことを前提として考えるべきだ。日本文教出版は目次が見やすく、単元ごとに関連するものをまとめて記載しているので、生徒が持ち帰って読みやすい。

神澤委員：自殺について取り扱いがない。先生方が授業を構築していく上で必要になる部分であるので、どの教材になってもきちんと取り組んでいただきたい。

中田教育長：ご意見を総合すると、東京書籍、日本文教出版、光村図書出版を推薦するご意見が多いようだ。この3社に絞って再度ご意見を賜りたい。

西井委員：私は東京書籍が良いと思う。現場を含め、推薦が多い日本文教出版のものは、命やいじめの問題について丁寧に扱っている点は評価できるが、一方で、単元が細かすぎるので、評価の際、教員の負担になることが危惧される。

レイナル委員：内容をみると、光村図書出版のものが様々な視点や考え方を紹介していると思う。中でも、桃太郎の話が紹介されているが、次のページをめくると親を討たれた鬼の子どもの視点が紹介されている。このように私たちが持つ固定観念を覆すような工夫がされているのが良い。また、選挙についても触れている点でも評価できる。ただ、印刷等については、鮮やかさが足りないと思う。

坪井委員：光村図書出版には、各単元に「私の気づき」があり、自分の意見や感想を記入できるようになっている。また、3年生用には、人生年表があり、目標設定させる点が大変良いと思った。

寺田委員：日本文教出版について、先生方から評価が高い理由を考えた。1年生用では、新しい生活、新しい仲間、新しい自分に「である」ことをテーマに、2年生用では自分自身や仲間とのつながりを「みつめる」ことをテーマに、3年生用は夢を持ち、仲間と共に将来を「ひらく」ことをテーマにしており、またそのことを明記している。このことによって道徳は何のために学ぶのか分かりやすいし、道徳という教科について、明るく開かれた印象を持ちやすくなると感じた。

浦林委員：私は、光村図書出版か日本文教出版が良いと思う。ただし、光村図書出版はシーズンで分けられているのが難点である。日本文教出版は自分の意見、話し合いのメモ、話し合いで気づいたことがそれぞれ別の欄になっており、整理しやすい。また、性についても内容が充実していると感じた。

中田教育長：3社を挙手で決定してよろしいか。

浦林委員：複数挙手してよろしいか。

中田教育長：複数挙手は可能とする。

では、東京書籍が適切だと思う方は挙手願う。

(2委員が挙手)

中田教育長：続いて、光村図書出版が適切だと思う方は挙手願う。

(3委員が挙手)

中田教育長：最後に、日本文教出版が適切だと思う方は挙手願う。

(全委員が挙手)

中田教育長：それでは、「日本文教出版」を生駒市の平成31年度使用中学校教科用図書(特別の教科道徳)として採択することに異議ないか。

(異議なし)

審議結果 【日本文教出版を採択】

【特別支援学級使用教科書】

・特別支援学級使用教科書の採択について城野教育指導課長から説明

中田教育長：特別支援についても日本文教出版を使用するのが望ましいという説明であったが、いかがか。

(異議なし)

中田教育長：以上をもって、小学校教科用図書、中学校の特別の教科道徳の教科用図書及び特別支援学級が使用する教科書の採択についての審議を終了する。選定懇話会の皆様、調査部会や各小中学校の先生方には、長期にわたり研究を重ね、貴重なご意見や報告書を作成していただいた。また担当部署においては、教科書センターを開設し、広く市民のご意見と教科書採択に必要な情報を収集していただいた。この場をお借りして、感謝を申し上げます。しかしながら、私が申し上げるまでもなく、採択した教科書がどのような教科書であれ、子どもたちにとっての最大の教育環境は現場の先生方である。子どもたちが健やかに育つためには、現場の先生方の熱意と努力と研究にお任せするしかないのが現状だ。現場の先生方には、本日採択した教科書を学習活動の中で生かしていただき、充実した学習をすすめていただくよう、お願いしたい。

審議結果 【日本文教出版を採択】

○閉会宣告

午前 11 時 8 分 閉会